

地域全体で子どもたちのキャリアを形成する

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：地域ぐるみでのキャリア教育の実践とその効果

研究代表者：高等教育推進センター 准教授 渡部 芳栄

課題提案者：NPO法人みやっこベース

研究メンバー：高瀬 和実・井上 一彦（以上、高等教育推進センター）、早川 輝（NPO法人みやっこベース）

技術キーワード：地域との連携・協働、キャリア教育

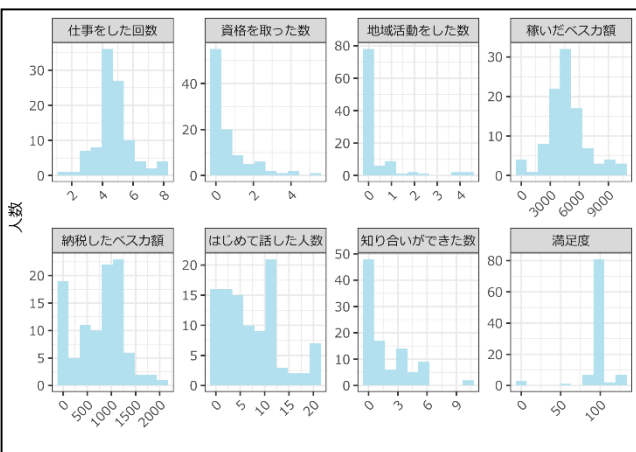
▼研究の概要（背景・目標）

政策的には多様な主体が関わってキャリア教育を推進することが求められているものの、宮古市を含む多くの地域では発展途上の状態である。

そこで本研究では、宮古市におけるキャリア教育の現状を明らかにし、NPO法人みやっこベースが実践している「みやっこタウン」の取組を評価することで、宮古市における今後の課題を検討することを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

宮古市内の学校における学校外の組織等と連携したキャリア教育の現状の一端を明らかにするため、キャリア教育の全体計画・学年計画の有無、及び、ある場合にはその中に登場する連携・協働先や具体的事例と、キャリア教育において今後希望する連携先や内容についてのアンケートを実施した。また、みやっこタウンに参加した児童を対象にアンケートを実施した。



▼分析結果

1) キャリア教育に関する調査結果

・連携・協働先は、中・高で企業が多い一方、NPOは挙げられていない。小では現状外部との連携は少ないが、今後は縦（幼稚園や中学校）、横（企業等）とのつながりも求めている。

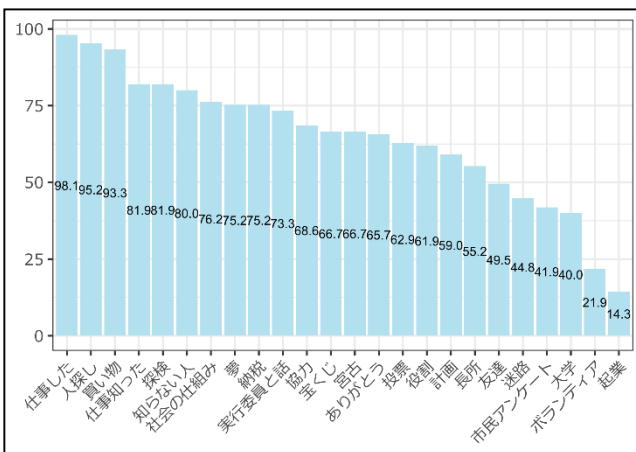
・地域との連絡調整を担う人材が必要という記載も見られた。

2) みやっこタウン参加児童のアンケート結果（下図）

・本来の目的である「仕事を経験する」児童は多く、満足度は非常に高い。

・ほとんどすべての児童が「仕事」を体験する一方、地域活動・起業・ボランティアは少なかった。

・大学で学ぶ・資格を取る・市民アンケートに協力するという活動も決して多いとは言えなかった。



▼今後の課題・展開

以下の2つの課題を指摘できる。

第1に、学校では外部との連携が進んでいる学校段階がある一方で、自由記述にもあったように、今後外部との連携をさらにすすめるためには、コーディネート機能を検討しないといけない。

第2に、みやっこタウンにおいては、子どもたちが仕事をし、それを通してまちの運営に関わるという狙いは達成できているとも言えるが、仕事以外の活動（ボランティア等）については児童はあまり経験していなかった。また、現在市内にある仕事の紹介はできているとしても、（少）ない仕事や、起業などの新たに価値を生み出すという観点についてはみやっこタウンでは実践しきれていない。

しかし、学校教育ではできない職業体験・キャリア教育を地域ぐるみで実践している貴重な事例であることは間違いなく、こうした取組を学校の教育活動とどのように連携させていくのかについても、大きな検討課題として残されているだろう。